

演劇創造

復刊

第138号

(第53巻 第1号)

平成30年(2018年)7月15日発行



—— 発行 全国高等学校演劇協議会 ——

〒270-0025 千葉県松戸市中和倉590-1 千葉県立松戸高等学校 TEL(047)341-1288 FAX(047)346-4002

事務局長 阿部 順

ホームページ <http://koenkyo.org/> メール info@koenkyo.org

第64回 長野大会によせて

全国高等学校演劇協議会

会長 揚村 洋一郎



第64回全国高等学校演劇大会は、第42回全国高等学校総合文化祭の主催県である長野県において、ここ上田市セントミュージゼを会場に8月7日～9日の3日間にわたって開催されます。全国8ブロックより推薦を受けた11校に開催県の長野県からの1校を加えた12校の作品が上演されます。

全国高等学校総合文化祭は、文化部のインターハイとも呼ばれ、演劇をはじめ高等学校文化連盟のすべての部門における日頃の部活動の成果が披露される場です。本大会も約2万人を超える高校生の参加が予定されています。「みすずから信濃に若木は競い森を深める 山脈渡る風に種子を拡げて」という「2018信州総文祭」の大会テーマのもと、実行委員会を中心に総力を上げて、長野の地に高校生の文化の祭典が繰り広げられます。

演劇部の生徒にとっては舞台上に新しい世界を創りだすことが大きな喜びです。単に上演するだけの喜びにとどまらず、笑いや涙とともに、より質の高い感動を観客の皆さんと共有することを目指しています。そのために、身体訓練に始まり脚本制作・研究、演出・演技の工夫、舞台装置の作成といった演劇創造に努力を惜しみません。このような日常活動の積み重ねによって生まれた舞台が、今まさに花開こうとしております。生徒の真摯な活動を支え、応援していくことは私たちの使命だと考えています。

一方、全国大会において当初より「指導者講習会」を掲げているのも、高演協の姿勢の表れの一つです。指導者の養成は高校演劇の大きな課題です。初めて演劇部の顧問を引き受けてはみたものの、演劇に関する知識も経験も乏しく、指導方法もおぼつかないという話をよく聞きます。そのような方々のためにも、本大会では、様々な講習会・研修会を開催しております。演劇を志し、意欲のある先生方や指導者が増えていくことを支援していくのも高演協の重要な役割の一つです。毎年「指導者講習会」に参加された先生方から、今後の演劇部の指導に大いに参考になったとのご意見を頂いております。かく言う私も素人ですが共に勉強して参りましょう。

高演協は、地区大会を経て都道府県の中央大会への出場が決まり、ブロック大会を経て全国大会に臨むという、コンクール形式をもって各大会が運営されています。演劇という表現形態のため、その審査には地区大会から専門家が当たることとなります。そのため、演出・演技、装置、音響・照明といった総合的な見地に立って、専門的な判断や講評を仰ぐことができます。皆さんのご覧になった演劇について、専門的な立場からご指導・助言をいただけるということが、演劇作りの質的向上に大いなるヒントを与えてくれます。

いよいよ第64回全国高等学校演劇大会が始まります。この全国高等学校総合文化祭は42回を数えますが、大変意義のある大会であり、各ブロックから推薦された12校の意気込みを強く感じます。本大会をとおして生徒及び関係者の方々との交流が深まり、文字どおり演劇創造としての舞台が築かれようとしています。これまで高校演劇に取り組み続けてこられたすべての方々のご尽力に思いをはせながら本大会に望みたいと思います。

結びに、数年も前から準備にご苦勞をいただいている開催地長野県の担当者並びに上田市をはじめ関係各位の皆様には厚くお礼を申し上げます。

(全国高等学校演劇協議会会長 東海大学大阪仰星高等学校中等部・高等学校校長)

ようこそ信州へ

横野 秀昭



第64回全国高校演劇大会（長野）に全国各地から参加される生徒・関係者の皆様、また、高校演劇に関心をお寄せいただいた皆様、ようこそ長野県上田市にお越しくございました。心より歓迎申し上げます。

ここでは別冊の部門プログラムに無い内容として、本大会の準備として4月7日（土）、8日（日）に行われた出場校打合せ会の様子、特に上演順の抽選会の模様を報告させていただきます。

抽選会は出場12校の内7校の会場下見が終わった夕方5時近くから始まりました。ステージの上には客席に向かって約1mの間隔で12本のラインがひかれています。その後の展開は……

- ①12校の代表者各1名が登壇し用意された12個の椅子を任意に選んで座ります。
- ②椅子の座面の裏には1～12のカードが貼ってあり、首から学校名の記されたボードを下げた代表がその番号を言います。これで決定かと思ったら、続きがありました。
- ③カードの順番に、代表は長さ1mくらいのテープを1本受け取り、ステージ上のラインの間の好きな場所に置き、あわせて好きなラインの後ろに立ちます。

もうお分かりのとおり②は予備抽選で、最終的には巨大なあみだくじで上演順が決まったのでした。最終的にたどり着いた場所にはお土産と伏せられた番号札が置かれています。お土産は実行委員の生徒たちが知恵を絞って選んだ12種類の長野県の名産品です。ちなみにそれは、七味唐辛子、りんご、ぶどう、わさび、くるみ、みそ、野沢菜、そば、寒天、栗、野辺山牛乳それぞれを使用してお菓子、善光寺にゆかりのあるお菓子でした。

そして、やはり一番盛り上がった瞬間は伏せられた番号札を一斉にあげた時でした。現地実行委員会の生徒諸君が考えた企画のおかげで、この抽選会を通して実行委員と出演校生徒の距離が一気に縮まる様子が手に取るように分かったのでした。

最後になりましたが、この大会開催にあたりご指導とご協力を賜りました全国高等学校演劇協議会の先生方をはじめ、本県の全国高等学校総合文化祭推進担当の皆様、地元上田市、そして全国各校の演劇に携わっておられる先生方に心から感謝申し上げます、歓迎のご挨拶といたします。

第42回全国高等学校総合文化祭演劇部門部長（長野県木曾青峰高等学校長）

ようこそ、信州上田へ

中澤 祐太



長野県は古くから信州とよばれ日本の屋根といわれる山々に囲まれ、その間をめぐって多くの川が流れる自然豊かな所です。南北に長く、地域的にも四つ（北信、中信、南信、東信）に分かれており、東信に属する上田市には、大河ドラマ「真田丸」の舞台になった上田城があります。日本一の兵と称された真田信繁（幸村）とともに戦国を戦った名城として、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉を愛でに観光客が訪れます。また長野には信州そばをはじめ美味しい食べ物が沢山あります。上田の名物は「美味だれ焼き鳥」？です。元気が出ます！ニンニクが効いてます！お試しください。さらに温泉も多く、近くには別所温泉、鹿教湯温泉などがあります。是非、疲れを癒してください。

私たちは昨年、宮城県を視察し、行き届いた大会運営、おもてなしに感動しました。その後「長野らしい大会」「記憶に残る長野大会」とするために、「オール信州」を合い言葉に準備を進め、この度皆様をお迎えできました。決して準備万端といったことはありませんが、心のこもった大会運営を心掛けて参ります。長野県初の全国大会開催に四苦八苦して参りましたが、多くの皆様の協力を経て、改めて、本当に沢山の人の支えられて大会が開催できることに感謝の気持ちで一杯です。この大会を機に高校生の演劇文化がさらに発展し、また皆様の心にいつまでも残る良き思い出となることを祈念しております。全国大会出場校の熱い上演、生徒講評委員の皆さんの熱い討論、そして信州上田の熱い夏を思いっきりお楽しみください。長野の夏は熱いのです。

第42回全国高等学校総合文化祭演劇部門 現地実行委員

全国大会 出場校一覧

学校名	作者名	作品名
富山第一高等学校	ユウと愉快的仲間達	ぼくらの青春ドキュメント
香川県立丸亀高等学校	豊嶋了子と丸高演劇部	フットボールの時間
栃木県立栃木高等学校	角海紀雄・栃木高男	卒業
創成館高等学校(長崎)	塚原政司	髪を梳かす八月
長野県木曾青峰高等学校	日下部英司・手塚万桜・藤澤明穂	Another Lifeが座る場所
岡山県作陽高等学校	山崎公博/作 作陽高校演劇部/潤色	待ちの風景
宮城県仙台三桜高等学校	クリアウォーター/作 仙台三桜高校演劇部/潤色	宇宙の子供たち
北海道余市紅志高等学校	千葉和代・余市紅志高校演劇部	おにぎり
京都府立朱雀高等学校	京都府立朱雀高等学校演劇部・中谷真紀	<small>せいしゅんさんか</small> 青春讃夏 ~僕らの時間~
山形県立山形東高等学校	奥山諒太郎・山形東高校演劇部	ガブリエラ黙示録
長野県松本美須ヶ丘高等学校	W. シェイクスピア/原作 郷原玲/翻案	M夫人の回想
千葉県立松戸高等学校	阿部 順	Time After Time ~インディアンサマーより~

講習会講師一覧

第1分科会 「演技」 三浦 剛 氏

第2分科会 「演出」 中屋敷法仁 氏

第3分科会 「演劇研究」 西堂 行人 氏

第4分科会 「舞台技術創造」

大沢佐智子 氏 (日本舞台美術家協会)

土屋 茂昭 氏 (日本舞台美術家協会)

長田佳代子 氏 (日本舞台美術家協会)

吉木 均 氏 (日本舞台監督協会)

乳原 一美 氏 (日本照明家協会)

藤田 赤目 氏 (日本舞台音響家協会)

熊野 大輔 氏 (長野県伊那文化会館)

第5分科会 「部活動」

土田 真一 氏 伊藤 靖之 氏 岡崎賢一郎 氏

第6分科会 「生徒講評委員合評会」

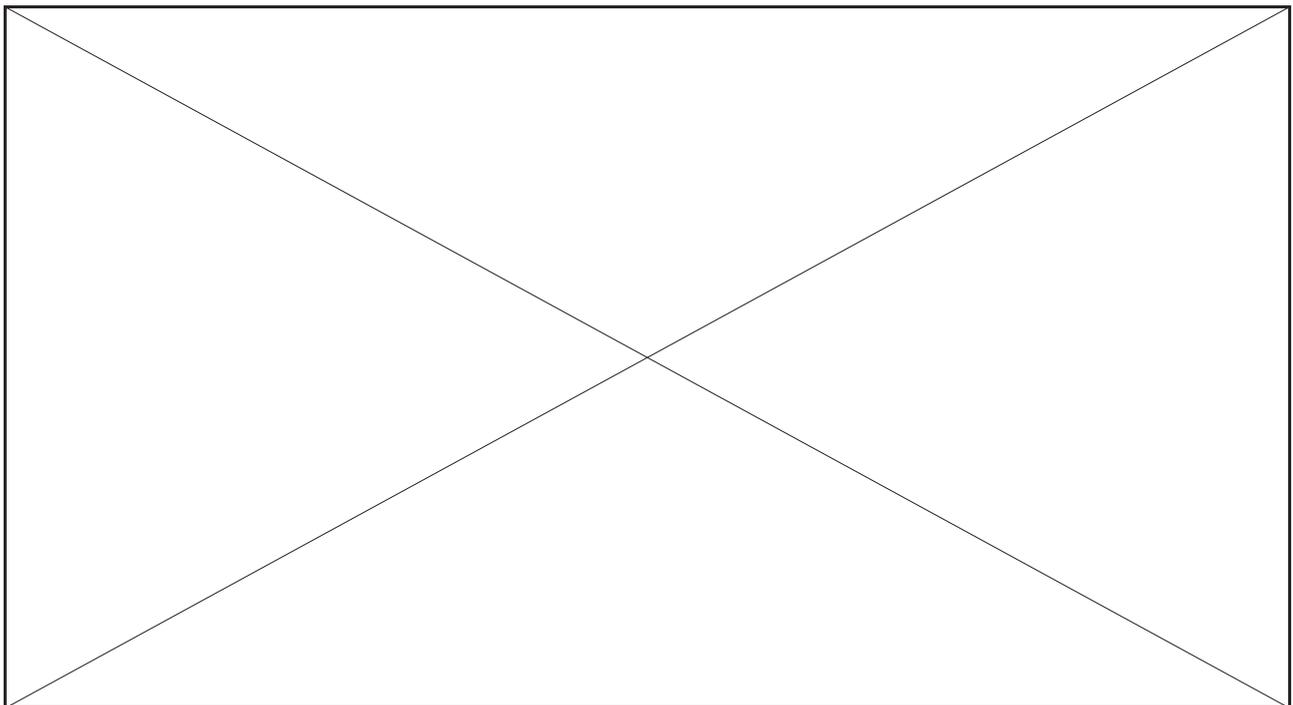
大会日程表

第64回全国高等学校演劇大会(長野大会) 第64回全国高等学校演劇指導者講習会
第42回全国高等学校総合文化祭演劇部門

期間 2018(平成30)年8月4日~8月9日

会場 サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター

	8月4日(土)	8月5日(日)	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	
8:00	開館・準備	開館・準備	開館・準備	開館・準備	開館・準備	開館・準備	8:00
8:30	大会役員打合せ	大会役員打合せ	大会役員打合せ	大会役員打合せ	大会役員打合せ	大会役員打合せ	8:30
9:00	舞台総合仕込み・実行委員会 9:00~11:00	係準備 リハ④準備	係準備 リハ⑧準備	開場9:10 開会式 9:30~10:10	開場9:10 準備	開場9:10 準備	9:00
9:30		リハーサル④ 丸亀 9:30~10:50	リハーサル⑧ 仙台三桜 9:30~10:50	準備	上演⑥ 岡山県作陽「待ちの風景」 9:40~10:40	上演① 松本美須々ヶ丘「N夫人の回想」 9:40~10:40	9:30
10:00		リハ⑤準備	リハ⑨準備	上演① 富山第一「ぼくらの青春ドキュメント」 10:40~11:40	休憩・準備	休憩・準備	10:00
10:30	リハ①準備	リハーサル⑤ 栃木 11:00~12:20	リハーサル⑨ 余市紅志 11:00~12:20	休憩・準備	上演⑦ 仙台三桜「宇宙の子供たち」 11:10~12:10	上演② 県立松戸「Time After Time ~インディアンサマーより~」 11:10~12:10	10:30
11:00	リハーサル① 松本美須々ヶ丘 11:10~12:30	仕込み調整 昼食休憩	仕込み調整 昼食休憩	上演② 丸亀「フットボールの時間」 12:10~13:10	昼食休憩 準備	昼食休憩 準備	11:00
11:30		リハ⑥準備	リハ⑩準備	昼食休憩 準備	上演⑧ 余市紅志「おにぎり」 13:10~14:10	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	11:30
12:00	昼食休憩 12:30~13:20	リハ②準備	リハーサル⑩ 山形東 13:00~14:20	上演③ 栃木「卒業」 14:10~15:10	休憩・準備	講習会 第4分科会(舞台技術創造講習) 13:10~15:10	12:00
12:30		リハ③準備	リハ⑪準備	休憩・準備	上演④ 山形東「髪を梳かす八月」 15:40~16:40	移動・準備・休憩	12:30
13:00	リハ②準備	リハーサル⑥ 創成館 13:00~14:20	リハーサル⑪ 県立松戸 14:30~15:50	上演⑤ 木曾青峰「Another Lifeが座る場所」 17:10~18:10	休憩・準備	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	13:00
13:30	リハーサル② 木曾青峰 13:30~14:50	リハ⑦準備	リハ⑫準備	休憩	上演⑥ 木曾青峰「Another Lifeが座る場所」 17:10~18:10	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	13:30
14:00	リハーサル③ 富山第一 15:00~16:20	リハーサル⑦ 岡山県作陽 14:30~15:50	リハーサル⑫ 朱雀 16:00~17:20	舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	14:00
14:30			生徒交流会 準備	舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	14:30
15:00			生徒交流会 17:40~19:00	舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	15:00
15:30			審査員打合せ	舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	15:30
16:00				舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	16:00
16:30	開会式リハ 16:30~17:20			舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	16:30
17:00	交流会リハ準備			舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	17:00
17:30	生徒交流会 リハーサル 17:30~18:30			舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	17:30
18:00				舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	18:00
18:30				舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	18:30
19:00				舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	19:00
19:30	舞台点検 清掃			舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	19:30
20:00				舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	20:00
20:30				舞台点検 清掃	舞台点検 清掃	講習会 第1・2・3・5・6分科会 13:40~15:10	20:30



特集 全国大会出場校による

① みんなで楽しく頑張ります！

これが「ほくらの青春ドキュメント」です！

(コウと愉快的仲間達)



富山・富山第一高等学校

② 大地は、誰の足跡でも受け止めてくれる。

女子サッカー発祥の地とされる香川県丸亀市の丸亀高等女学校。そこには100年前、袴姿でボールを追う女学生たちがいた。当時サッカーは男性の競技とされ、女性がすることを良く思わない人も多かった。その中で女学生はどんな思いでボールを蹴り続けたのか。

「フットボールの時間」は、そんな大正のなでこたちに思いを馳せて作りました。是非ご覧ください。

(船橋こころ)



香川・丸亀高等学校

⑤ 挑戦、新しく、精一杯。

初の全国大会出場に伴ってメンバーの入れ替えがありました。今まで3年生のいた枠に1年生が入ることは部にとっても本人にとっても大きな挑戦だと思えます。今年は3人も入部して、全員気持ち新しく無心となって『Another Lifeが座る場所』を作り上げていきます。今の自分たちにできることを精一杯やって自分たちも満足できる舞台をお届けします！

(手塚 万桜)



長野・木曾青峰高等学校

⑥ 私たちの上演を待っていてください

「待つ」こと。私たちの生活の中で、これをしていない日はないくらい身近なことです。この舞台ではある姉弟が自分の力でどうにもできない向かい風にさらされつつ誰かを、あるいは何かを待っている様子を描いています。ふたりのいる風景。ふたりのいた風景。景という字には二つの意味があります。「ひかり」と「かげ」二人が最後に見つめるのはどちらでしょうか。

(演劇部一同)



岡山・岡山県作陽高等学校

⑨ 「楽しんだもん勝ちや〜！」

上演するのは「青春讃夏〜僕らの時間〜」という作品です。この作品は、去年の夏に、生徒と先生で話し合いを進め、みんなで創り上げました。題名の「僕らの時間」には、今しかできない自分達の時間を大切にしようという思いも込めています。舞台は演劇部で、一つの劇を創っていく話です。「楽しんだもん勝ちや〜！」をモットーに、全国大会も楽しめます。

(前田 涉吾)



京都・朱雀高等学校

⑩ Humanと書いて不満と読もう。

a-poc-a-lypse

- 【名】① [the〜] この世の終わりの日
- ② [単数形で] 大惨事;大事件.
- ③ [the A〜] ガブリエラの黙示録

—ジューニオス 英和辞典 第5版—
(奥山諒太郎・山形東高校演劇部)



山形・山形東高等学校

サントミュージゼに全国の8ブロックから推薦された12校がそろいました。

このページでは、出場校からの「舞台にこめるメッセージ」を写真とあわせて届けさせていただきます。短いことばの中にこめられた各校の熱い思いを感じていただければと思います。また、写真からどのような芝居が繰り広げられるか雰囲気を感じてもらえればと思います。

最後になりましたが、出場校のみなさんには、貴重な時間をさいて協力していただきありがとうございました。

第12回春季全国高等学校演劇研究大会 (フェスティバル2018)

2018年3月16日～18日。神奈川県立青少年センターにおいて春季全国高等学校演劇研究大会（フェスティバル2018）が行われました。今年も多くの観客に恵まれました。思えば、台風の中、上演中止になったなかで延々と話し合いがもたれ、とにかくやろうではないかということになり、試行含めて劇団四季自由劇場で行いました。その後、諸般の事情で取りやめとなったあとの全国各地巡演開始以来、関東で初めての運営となりました。

この取り組みは、前全国事務局次長の森本繁樹氏（神奈川）が始めたと言える取り組みでした。彼の子どもと言っても良い取り組みでした。その彼の地元であり、神奈川県高校演劇のメッカとも言える青少年センターで行う事ができました。

彼の志を引き継いだ私としては大きな感慨がありました。でも何と言っても私にとって重要だと感じたのは、そんなことではなかったのです。本当に私が駆け出しの頃、怒られまくったのと同じような偏屈な小屋主が居る。本当に久しぶりに骨のある小屋主で高校演劇が大好きな方とで会うことができ、その出会いだけでも本当に嬉しいことでした。私はそういう人に鍛えられて今に至ります。

その小屋主に2日目に飲みに行くぞと誘われ、神奈川の顧問から羨望のまなざしを受けたのが何よりもうれしかった。すみません。私信になってます。小屋主はとても暖かいが間違ったことに対して絶対に許さないという方でした。小屋には命の危険がある。セットの立て方一つ、吊り物の重さ一つ、照明器具の固定一つで死亡事故がある。そこを知る者としての厳しさが舞台にはあるのです。そんな当たり前なのだけれど、慣れれば慣れるほど希薄になりがち安全に対する意識が薄れてきてはいないのか。などと思いながらこの大会を運営していました。小屋主は本当に演劇が好きで、何よりも普通の人々との演劇創造活動を愛している人です。（みかけは口うるさいじじいです）この出会いがまた次の取り組みへつながる勇気をいただきました。夏の舞台技術創造講習は本当に、これまで教えていただいたこのような熱い思いが全ての始まりです。この大会はそういう意味でも上演作品も本当に熱く！舞台裏も熱く熱く取り組むことが出来たすばらしい大会になりました。

第12回春季全国高等学校演劇研究大会（フェスティバル2018）上演校一覧

土佐女子高等学校	月の道標－ユタとの約束－	鈴木里実・中村賢一郎／作 土佐女子中高演劇部／構成
千葉県立成田国際高等学校	#ミサイルが日本列島を飛び越えていった日 やっぱりあたしたちは部室にいた	伊三野友章＋成国演劇部
広島市立広島商業高等学校	八月五日	黒瀬 貴之
兵庫県立西宮今津高等学校	海鳴り	ミカル・チエ
宮崎県立都城商業高等学校	ポケット戦争	後久 美里
青森県立青森中央高等学校	修学旅行～鬼ヶ島編	畑澤 聖悟
三重県立神戸高等学校	避難	川瀬 太郎／原案、村端 賢志／作
埼玉県立秩父農工科学高等学校	Solid Black Marigold	コイケユタカ
札幌北斗高等学校	キリン・Gペン・スケッチブック	須知 英生
麻布大学附属高等学校	ほらあ	あいともき



土佐女子高等学校



千葉県立成田国際高等学校



広島市立広島商業高等学校



兵庫県立西宮今津高等学校



宮崎県立都城商業高等学校



青森県立青森中央高等学校



三重県立神戸高等学校



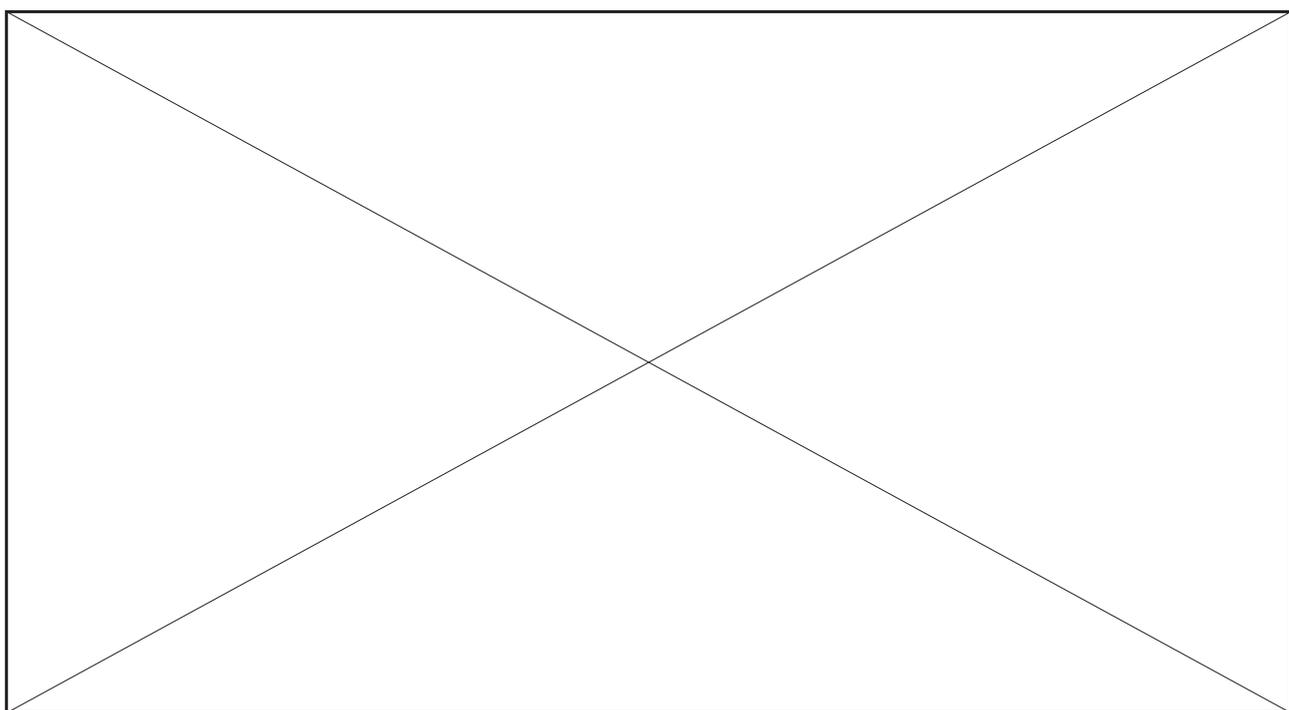
埼玉県立秩父農工科学高等学校



札幌北斗高等学校



麻布大学附属高等学校



都道府県だより

青森県

「さいはてより」

畑澤 聖悟

三省堂の「新明解国語辞典」を繙くと、

「《さいはて》陸地続きの最も端の所を、国土も文化もそこで果てると見立てた語」

と、ありました。一般論に見せかけてありますが、青森県を狙い撃ちしていることは間違いありません。本州の另一端に位置する山口県をさいはてと呼ぶ日本人はいないからです。「さいはて」は「北のはずれ」

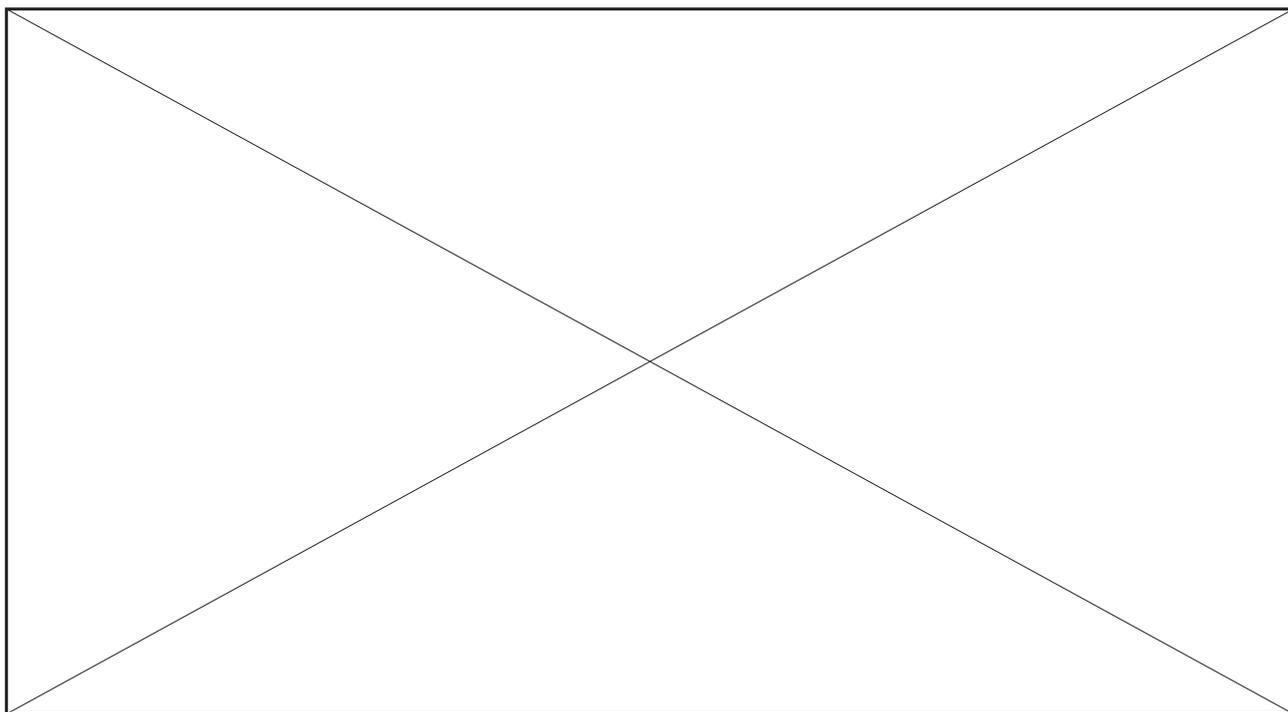
です。青森の枕詞です。あをによし奈良みたいな。だから寒い言葉なわけです。寒い寂しいに似ています。さて、青森市のメモリアルシップ八甲田丸の近くには「津軽海峡・冬景色」の歌碑があります。センサー付きで人の気配を察知すると自動的に歌が流れます。下北半島まで聞こえるんじゃないかという大音量ですので、知らずに近づくと相当にびっくりします。竜飛岬にも同じような歌碑があって、赤いボタンを押すと、「♪ごらんあれが竜飛岬、北のはずれとお～」

と、いきなり二番の歌詞が流れます。こちらはボタンを押すだけに心構えは出来ているのですが、北海道まで聞こえるんじゃないかという大音量ですので、やはり相当にびっくりします。ボタンを連打してもキッチリ歌いきるまで止まりません。走って逃げるしかありません。

前置きが長くなりました。

青森県の加盟校は現在29校。前年度から1校減です。かつて東青（東津軽郡+青森市）、二北（上北郡+十和田市+下北郡+むつ市）、三八（三戸郡+八戸市+三沢市）、中南（中津軽郡+南津軽郡+弘前市+黒石市）、西北（西津軽郡+北津軽郡+五所川原市）の5地区にわかれていたのですが、現在は東青・下北、三八・上北、中南・西北の3地区に統合されています。

青森に住む高校生の多くは「青森にはなにもない」と平気な顔で言います。そして卒業後は仙台や東京に出て行きます。しかし、ちょっと待て。確かに地下鉄もすかいらくもない、フジテレビは観られない。映



画館は少ない。発売日にジャンプを買えない。だからといって本当に「青森にはなにもない」のか。退屈しない人間はたとえ無人島にいても退屈しないはず。青森県内で活動を続けた俳優の故・牧良介が言っていました。

「街が面白えぐねーんだば、自分たちで面白えぐせばいーんだね」

全国大会における本県勢の最優秀賞受賞7回は都道府県別で全国最多。優秀賞は7回。全国春季高校演劇研究大会には6回出場を果たしています。「高校演劇が盛ん」と言い張ってもバチは当たりますまい。青森県は北の外れ。さいはて。なにもないけど面白いことは自分で作る。そんな気概がこの数字に表れていると思うのです。寒さに震える手で文化を編み続けてきた先人たちの魂は、今を生きる高校生たちにも生きています。そして、これからも生き続けます。

今後ともさいはての青森県にご期待下さい。

(青森県高等学校文化連盟演劇部委員長)

石川県

多忙化の中で

武藤小穂里

ある日突然「演劇創造」の執筆依頼がやってきた、「御多忙のところ大変恐縮ではございますが」と。そして、今日はもう締め切りをとうに過ぎた6月半ばの日曜日。担当の先生には本当に申し訳なく思っている。今日まで全く書けなかった。以前ならこれくらいの字数はさっと書いていたのに…。老化と多忙が心身を蝕んでいるのか。

さて、言い訳は終って、石川県支部について書こう。石川県は今夏第70回石川県高校演劇合同発表会を開催する。なかなかの伝統を持っているのだ。しかし今年の日程は全国大会とまるかぶりという、問題児ぶりでもある。

なぜ、せっかく北陸新幹線で日帰りできる上田市での開催だというのに、観劇もできない日程なのかを説明することで、石川の現状説明としよう。登録校は20校で今年の発表会上演するのは17校。そのほとんどが金沢地区の普通科、一般に進学校といわれる学校である。これらの学校では、～7/31と8/16～、全員補習が行われる。顧問の教科は国語と英語がほとんどで、補習の時期に何日も学校を空けることは出来ない。このため、発表会の開催時期は8月上旬に限定され、短期間に終わらせて生徒実行委員会や顧問の負担を軽くしようと、県大会のみを5日間で一気にやりきる形になった。会場は野々市市文化会館フォルテ。野々市市の公式行事によって最終的な日程を決定する。弱小演劇専門部には分不相応なすばらしい会館である。会館と野々市市教育委員会のご厚意により、共催ということで減免いただいている。自分たちの組織の外で高校演劇を応援して下さる方々がいるのは本当にうれしい。演劇部員と顧問全員にフォルテに足を向けて寝ないように指導すべきかもしれない。

部活動のあり方が教員の多忙化とともに大きな問題になっている。部活動が多忙化の根本原因だとは思わないが、一端になっているのは事実である。文化部は簡単に顧問が割り当てられるが、「活動日が多くて長い」「内容が多岐にわたり専門的」「大会運営が大変」な演劇部は顧問の定着がよくない(石川だけ?)。登録校が減る＝顧問数が減る、活動を支えてきた方々が退職を迎える、などマイナス条件が重なる中、大会や行事を運営していくために顧問の負担を少なくする運営のマニュアル化を進めている。演劇が大好きでなくても仕事としてこなせる状態が目標であるが、不思議なもので演劇に熱い顧問が少しずつ現れているのだ。この芽を大切にしながら、弱小なりに細々と、でも決して途切れることのないように、頑張っていこう。

(石川県高等学校文化連盟演劇専門部理事長)

奈良県

生徒創作脚本にむけて

若山 綾野

思えばウン十年前、高校一年生だった私が演劇部の扉をたたいたのが運の尽き、長い年月を経て、現在、勤務先の高校にて演劇部の顧問についています。そして只今この原稿を書いております。演劇部顧問としての経験も浅く、本年度より事務局長になったばかりで深いことは書けませんので、自分の感じたこと、思ったことを書かせていただきます。

自分自身が高校演劇をしていた頃と今を比較して何が違うかと言えば、高校演劇自体のレベルの高さ、照明機器のハイテク化や種類の豊富さ等、色々あれども、なんと言っても出回っている既成脚本の量の差だと感じます。数十年前には、既成脚本と言えば、渡辺えり子さんや北村想さんといったプロ劇団の脚本家によるものか「高校演劇戯曲選」といった書籍が数種類あるぐらいでした。プロ作家の戯曲は大概2時間もので、60分の制約のある高校演劇には向きません。そのため、高校生（顧問の先生方も）は創作脚本に取り組まざるを得ませんでした。

一方現在、インターネットの普及によりプロアマ問わない多くの脚本が世間に出回り、生徒はいとも簡単にそれを手に取ることが出来ています。近年、奈良県の高校演劇においてもネットで入手できる既成台本を用いた作品が増えてきています。これはもしかして、インターネットの普及が生徒の脚本執筆の機会を奪っているのではないのでしょうか。生徒が感じたことを生徒自身の言葉を使って書いた作品を生徒が演じる。高校演劇の良さはそこにあると思います。もっと生徒に創作脚本の魅力を知ってもらいたい。その思いから、昨年度、奈良県では夏季講習会に「匿名劇壇」の福谷圭祐先生を講師にお招きし、脚本作りを学びました。あらかじめ、生徒に告知して脚本を書いて送ってもらい、集まった脚本を福谷先生に読んでもらい講評をいただくといったものでした。生徒の創作脚本はどれも着眼点が新鮮で、一風変わった設定でありながら、そこには生徒が普段抱えている思いや悩みが込められていました。福谷先生は、脚本作り、台詞の用い方のコツやそれらの作品をどうすればより良いものになるかについてアドバイスを下さいました。その作品群の内1つは加筆されて昨年秋の地区大会で上演されました。生徒達は脚本の創作・推敲・舞台化を目の当たりにすることが出来ました。この取り組みが本県の創作脚本に取り組む生徒の裾野をひろげることに繋がればと切に願います。

現在、奈良県高等学校演劇研究会加盟校は昨年1校増えて22校。3地区に分かれて、県大会・近畿大会に繋がる9月の地区大会にむけて各校切磋琢磨しております。また、6月の夏季研修大会、3月の春季研修大会をはじめ、合同公演・自主公演の機会を設け、演劇技術の向上、他校との交流によるモチベーションアップに取り組んでいます。これからも高校演劇の活性化にむけて奈良県は団結して頑張っていきます。

(奈良県高等学校演劇研究会事務局長)

山口県

山頭火と、みずぶと、中也と、それから山口高演協。

みんな違ってみんないい。

近藤 真美

今年の顧問総会には24の加盟校から28名の顧問が集まりました。今年には特に顧問の顔ぶれが新しくなったのが印象的でした。現在、山口高演協は2つの意味で過渡期にあります。1つは、県大会講師の篠崎光正先生とともに歩んだ「これまで」に一区切りをつける決断をしたこと。もう1つは、その「これまで」を築かれた先輩方が続々と演劇部を退かれつつあることです。ずっとあると思い込んでいた楼閣が急激にフェードアウトして、ぽつんと置き去りにされるような、そんな感覚に陥ることもあります。さて、私たちは「これから」をどう築いていけばよいのか。皆で知恵を出し合い、悩み悩み、一つ一つ、足元に新たなレンガを

積み上げていくしかないのでしょうか。ですから、昨今の山口高演協は協議事項も増えがちで、種田山頭火風

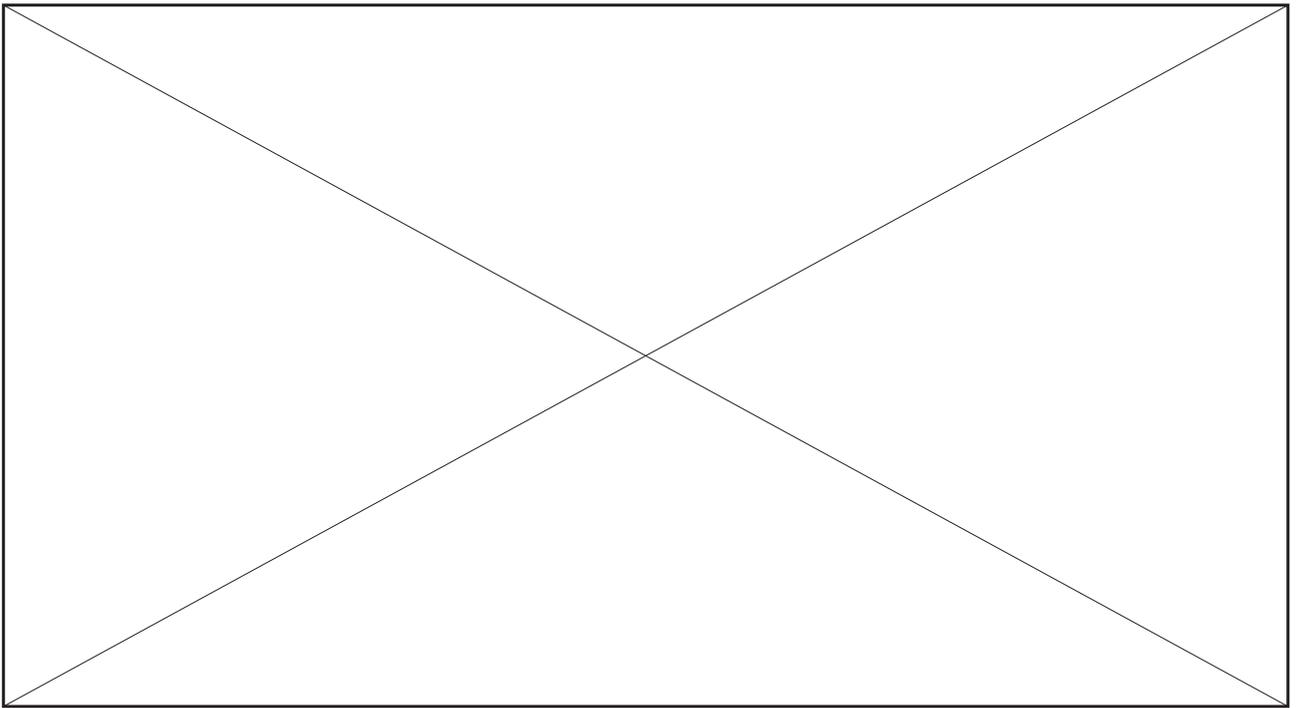
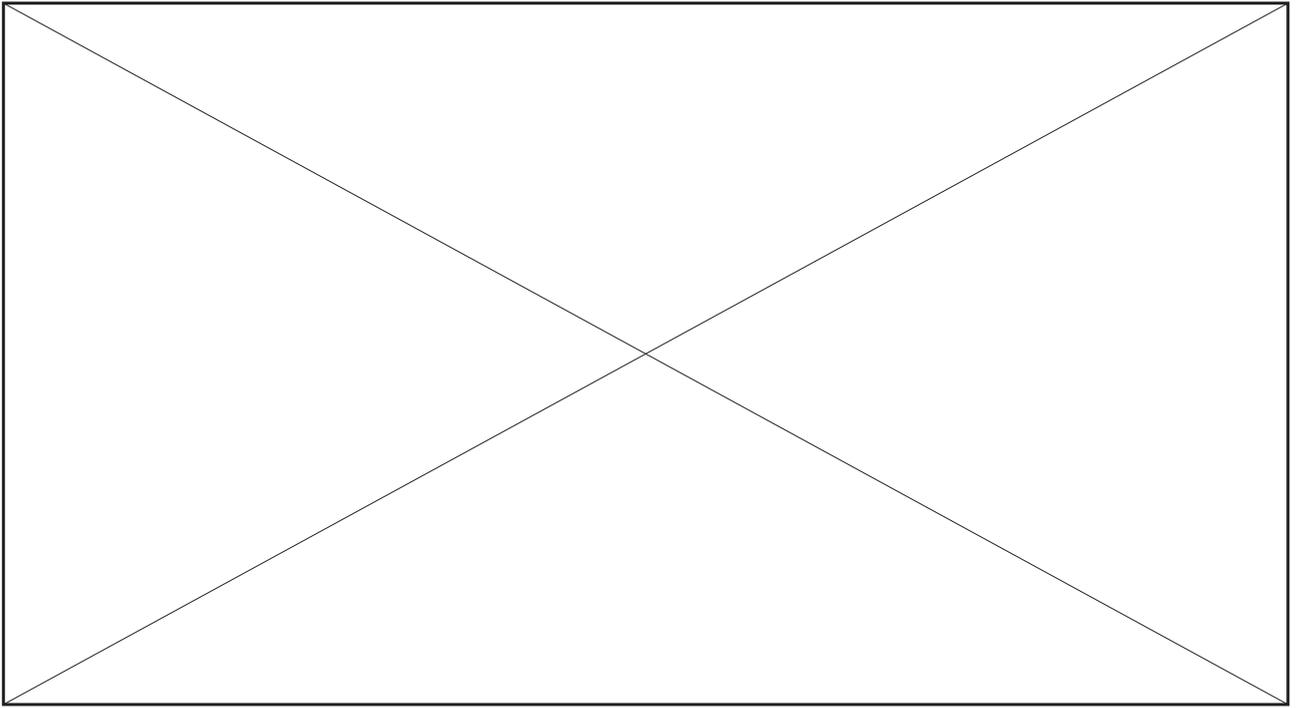
に言えば「こなしてもこなしても課題の山」。しかし、この顧問総会を境に、新たな顧問同士の連帯や前進の実感も沸きつつあります。山頭火の言った「まっすぐな道でさみしい」ならぬ、「まっすぐじゃない道で意外と楽しいかも」と、どっこい山口演劇人たちは感じ始めているかもしれません。

さて、脳を酷使した約3時間半の顧問総会と、約1時間の各地区会議を終えれば、いよいよ夜の懇親会へ突入です。この気分は明るい中原中也風と言って「疲れっちまった心身に、今年もビールがしみわたる！」です。山口市の中原中也記念館近くの焼き鳥屋に集ったのは17名。東端は岩国の先生、西端は下関の先生、初顧問の先生、ご退職された先生、現場を離れて県でご活躍中の先生、もちろん旧知の先生も、皆さんご参集くださって参加人数は過去最高となりました。この時の気分は金子みすゞ風に「いるんだよ。(日頃は)会えないけれどもいるんだよ。」中也風なら「うわーい、うほーい、うひゃ、うひょーい！」です。

この懇親会は前事務局長の新竹先生が始められ、「自分が事務局長時代に成し遂げた最も良い仕事」と自負されるとおり、実に重要な役割を果たすものになっています。職場はみんな違うのに、ここに来るとどうしてこんなにも自分らしくほっとできるのか、不思議です。おそらくこれが、演劇に携わる人間たちの一つの特徴ではないかと思うのですが、この懇親会は、先生方の面白トークと元気パワーにあふれているとともに、多様な個性を愛おしむ温かい雰囲気満ちています。みすゞの言う「みんな違ってみんないい」を心から感じる場所なのです。

山口高演協の「これから」を築いていくためには、このような顧問の横のつながりを大切に、信頼関係を作っていくことが不可欠と考えます。また、この会の先生方の人に対する接し方の中にこそ、まさに演劇部が直面している課題を解決するヒントがあるようにも感じられます。例えばクラスで閉じこもりがちな生徒が演劇部で自分らしさを取り戻していくヒント、各校演劇部が部員を獲得して統廃合の波に打ち勝っていくヒント、如何にして観客の心を動かす芝居を作るかのヒントなど…。はたまたそこから思考は、人間とは何か、社会が必要としているものは何か、教育とは何を指すべきなのか、なんていう哲学的な課題にまで深まっていったりして…。こうして、山口市の中原中也記念館近くの焼き鳥屋で過ごす楽しい夜は、げらげらとげらげらと笑い合っているうちに、さらさらとさらさらと、流れていくのであります。

(山口県高等学校演劇協議会事務局長)



事務局通信

平成29年度春季全国高等学校演劇研究大会は、初の関東圏開催となり、横浜の県立青少年センターを会場に3月16日（金）から18日（日）の3日間開催されました。入場者整理の懸念もありましたが、当日の入場整理について、大きな混乱もなく終了することができたのは、運営スタッフの取組のみならず、全国からお越しいただいた観客、関係者の皆さまの協力があったからこそのことと思います。また、今大会についてインターネットを通じた映像配信を試行しました。今後こうした大会情報発信を本格的に導入するかについては、十分に検証した後、可否を決定することになると考えます。

昨年度の大垣大会から、第3回常任理事会、第2回理事会を春季大会の日程の中で行うことになりました。今年度は3月16日に常任理事会、17日に理事会がそれぞれ行われました。第63回宮城大会の総括が開催県実行委員長から報告され、今年度8月7日（火）から9日（木）まで長野県上田市で開催される長野大会へと引き継がれていきました。昨年度は「舞台技術」の分科会が明確に位置づけられました。演技、演出、脚本とともに、舞台技術は、総合芸術である演劇の分野において欠かすことができない要素です。今後の大会では、舞台技術（道具、照明、

音響等）に関わる講習を通じて、より多角的に舞台を創る研修の機会を有効に活用していきたいものです。なお、協賛団体として金井大道具株式会社が加わり、前述の舞台技術講習会の講師派遣等も対応していただいております。

長野大会については、日程、審査員、分科会についても確定しましたが、総合開会式との関係等の要因でリハーサルの順番に一部特例が生じましたが、全体としては通常どおりのスケジュールとなります。今後は、佐賀、高知と続きますが、開催地の組織規模からも、ブロックとしてのバックアップ体制も必要になってくるものと考えます。

春季大会は、来年3月22日（金）から24日（日）まで穂の国とよはし芸術劇場で開催されます。春季大会については、大会の位置づけも定着し、夏の全国大会とは違ったのびのびとした大会の雰囲気も楽しみのひとつとなってきました。

その他、著作権に係る事例が複数件報告されましたが、許諾に係る初期段階での対応が重要ですので、地区大会レベルから意識していきたいものです。では、夏の上田でお会いできることを楽しみにしております。

（事務局・三上 実）

平成30年度 全国高等学校演劇協議会加盟校数一覧

地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数	地区	都道府県	加盟校数
北海道	北海道	98	中部日本 (260)	富山	20	四国 (63)	香川	14
東北 (192)	青森	30		石川	22		高知	17
	秋田	21		福井	15		徳島	16
	山形	21		愛知	135		愛媛	16
	岩手	28		岐阜	43	九州 (198)	福岡	65
	宮城	43		三重	25		佐賀	10
	福島	49		和歌山	14		長崎	18
関東 (889)	茨城	65	京都	27	熊本		32	
	栃木	40	奈良	22	大分		12	
	群馬	42	大阪	112	宮崎		18	
	千葉	115	兵庫	84	鹿児島	25		
	埼玉	117	滋賀	22	沖縄	18		
	東京	218	中国 (140)	鳥取	17	合計	2,121	
	神奈川	128		島根	13			
	静岡	45		岡山	46			
山梨	22	広島		40				
新潟	41	山口		24				
長野	56							

優秀校東京公演について

優秀校東京公演は、8月25日（土）26日（日）に国立劇場（東京都千代田区）で開催されます。全国大会で推薦された4校の上演の他に、東京都から特別上演が1校、演劇以外にも、日本音楽と伝統芸能の発表が行われます。入場の際は、開催日ごとに入場引換券が必要です。

観覧ご希望の方は「観覧希望日と希望枚数」を明記し、「82円切手を貼った返信用封筒」（7.5×19cmのチケットが折らずに入るもの）を同封のうえ、「8月15日（水）必着」で下記宛先までお申し込みください。1申込みにつき両日合わせて6枚まで申込可能です。

《宛先》

〒136-0074 東京都江東区東砂7-19-24

東京都立東高等学校内 優秀校東京公演 申込受付 係

宮下 克士 宛



NHK「青春舞台」について

全国大会の様子を取材した人気番組「青春舞台」（NHKEテレ）が今年も放映予定です。日時については後日お知らせしますので、ぜひご覧ください。全国大会に行かれた方はもう一度、行かれなかった方は存分に、“長野の熱い夏”を味わってください。また観た後はぜひ、はがき、メール等で、番組の感想をNHK宛に送っていただけますようお願いいたします。